

令和 7 年度

事業者番号	0462	事業所番号	046207
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	埼玉県企業局上赤坂中継ポンプ所		
事業所所在地	市区町村	狭山市	
	字・地番	大字上赤坂471番地3	
産業分類名(中分類)	36 水道業		
分類番号(中分類)	36		
事業活動の概要	事業内容	事業内容 水道用水供給事業 送水量 年間67百万m3	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	【第3計画期間】基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を20%とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	44,772	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	11,193	t-CO <sub>2</sub>		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	企業局全体で削減計画期間の平均削減率を48%以上とする。 (必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	5,153	5,030	5,020	5,076	5,080

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	10,212	9,969	9,948	10,060	10,069
前年度比 (%)	—	-2.4	-0.2	1.1	0.1
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六ふっ化いおう				
	三ふっ化窒素				
温室効果ガスの合計	10,212	9,969	9,948	10,060	10,069

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO<sub>2</sub>)

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間					
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	0.1518	0.1521	0.1518	0.1552	0.1510	
前年度比 (%)	—	0.2	-0.1	2.2	-2.7	
活動規模の指標単						
生産量	千m <sup>3</sup> /年	67,292.24	65,561.80	65,513.40	64,822.93	66,683.39

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和元年度に比べ令和2年度は送水量が増加したが、ポンプの運転台機が令和元年度よりも適正化されていたため、CO2排出量が減少した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和2年度に比べ令和3年度は送水量が減少した。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和3年度に比べ令和4年度は送水量が減少したため、排出量も減少した。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	前年度より送水量は減少したが、エネルギー消費の大部分を占める送水ポンプを非効率な組み合わせで運転したためCO2排出量、原単位とも悪化した。					
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和5年度までは供給区域の水需要減少に伴い、固定速の送水ポンプが非効率な領域で運転されていたため原単位が悪化していた。 令和6年度は同区域へ供給している高倉中継ポンプ所の送水量を減らし、上赤坂中継ポンプ所の送水量を増やす運用とすることで原単位の改善を図った。 その結果、送水量は約2.9%増加したがCO2の排出量はほとんど変わらなかったため、原単位は約2.7%減少した。					

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	11,193	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	11,193	11,193	11,193	11,193	11,193	55,965
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						44,772
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						11,193
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	10,212	9,969	9,948	10,060	10,069	50,258
	削減率 (F = (A - E) / A)	8.76%	10.94%	11.12%	10.12%	10.04%	—
	排出削減量 (G = A - E)	981	1,224	1,245	1,133	1,124	5,707
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	環境マネジメントシステム・エネルギー管理標準による設備の適切な運転【継続実施】	R5	R5	
2	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	特別高圧変圧器 (2台) の更新	R1以前	R1以前	
3	490100	その他	49_排出量取引	第2計画期間目標達成のため企業局内、他の大規模事業所との間で排出量取引	R2	R2	
4	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	1系中継ポンプの回転数制御化	R7以降		
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄